

第75回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：令和元年9月17日（火）
午後7時00分～午後8時50分
会 場：城山公民館大会議室
出席者：21名（欠席2名）
傍聴者：3名

1 開 会

2 あいさつ 大参代表

3 議 題

（1）令和元年度城山地区まちづくりを考える懇談会について

事務局から資料1～6に基づき当日の進行・出席者・席次・テーマについて説明を受けた。

確認事項

懇談会当日の役割分担について次のとおり確認した。

司会進行	曾根副代表
懇談の進行	大参代表
テーマの説明者	宗田委員
テーマの説明者	小島委員
閉会宣言	八木副代表

出席者について、まちづくり会議の委員以外に城山地区の自治会長に出席を依頼することを確認した。

質問・意見等

特になし。

（2）城山地区で具現化していく取組について（部会検討）

事務局から資料7～11に基づき、前回までの主な意見の振り返りとこれまでの意見等に基づいた取組（案）についての説明があった。

その後、部会に分かれ、これまでの意見等に基づいた取組（案）についての検討が行われた。

【各部会からの検討経過の報告】

高齢者とともに築き支える地域づくり部会

資料 8 の取組（案）について検討した結果、次の意見がありました。

- ・お節介さんが困っている人の情報を集めるのではなく、SOSを出しにくい人や様子が変わった人がいたら声をかけたりする意識を持ってもらうことを行う。
- ・お節介は、ちょっとおかしいということから始まる。
- ・取り組みとして、各地域にお節介さんを増やし地域に広めていく。
- ・うちわやワッペンを作り広める。
- ・組織を作り、こういったことをしますといっても難しい。まずは、お節介をやってみませんかということでゆるやかに始めてはどうか。
- ・こういった取組は、防犯的にも良いのではないか。
- ・自転車で地域内をパトロールしたらどうか。

子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

資料 10 の取組（案）について検討した結果、次の意見がありました。

- ・対象者は、小学生だけでなく中学生も含めたほうが地域への繋がりがでてくる。
- ・子どもたちがやってみたいことと同時に子どもたちの背中を押す大人が必要であるため、保護者も興味を示すような仕組みが必要。
- ・子どもたちを集めるためのPRが難しいことが想定される。
- ・大人が子どもたちに何をさせたいか考えるとつまらなくなる。
- ・広陵こどもクラブには、スポーツ少年団のようなスポーツの部門や英会話などの文化的な部門もある。こういった団体を活用し中学生を加え、世代間交流を図ったらどうか。他の地域でもこのような団体があるのではないか。
- ・子どもの意見を取り入れる際のファシリテーターの役割が重要となるため、NPO法人などに相談したらどうか。

(3) その他

- ・事務局から城山総合事務所周辺公共施設再編に伴う「移転等のスケジュール」について情報提供がされた。
- ・事務局から令和元年度城山地区まちづくりを考える懇談会「地域の未来を語ろう with 市長」の開催通知が配布された。
- ・次回のまちづくり会議全体会は、令和元年11月19日（火）午後7時から城山公民館大会議室で開催することを確認した。